Future's Answer

株主の皆様へ

第6期　2007年1月1日~2007年12月31日

OPTEX FA CO., LTD.
オプテックス・エフエー株式会社

CONTENTS

プロフィール …… 1
センシング技術で、
世界の“モノづくり”を支援しています。

財務ハイライト …… 2

株主の皆様へ …… 3
今後の主力市場である画像センサ分野に
本格参入。迅速な拡大に向けて、
人員を拡充し協業体制を整えました。

画像センサ事業の戦略 …… 6
圧倒的な市場規模の「ミドルレンジ市場」を
開拓していきます。

製品の品目別販売状況 …… 7
汎用機器／アプリケーション機器

要約連結財務諸表 …… 9
要約個別財務諸表 …… 11
会社概要 …… 13
株式の状況 …… 14

センシング技術で、世界の“モノづくり”を支援しています。

生産性を高めながら、高品質なモノづくりを進める――。それは、グローバル競争に、安全・安心が求められる時代にあって、世界のモノづくりの現場で必要とされる2つのニーズです。

当社の基盤技術「センシング」とは、直接、モノに触れることなく、数量や位置などさまざまな特徴を検出する技術のこと。当社は多彩なセンサの開発によって、高度化・多様化するモノづくりの現場を支えています。

3つの技術で「センシング」を実現しています。

物体の有無を検知する赤外線などの光学技術。
モノの位置を正確に検知するレーザ技術。
複雑な対象物をデジタル処理する画像処理技術。
当社のセンサはこの3つの技術を基盤にしています。

さまざまな外部の変化を
電子的に検出・分析

センシング技術
Sensing Technology

分析結果を
生産・品質管理に応用

- 品質向上
- 品質の均一化
- 歩留まり向上
- 高速化
- 精度向上
- 省力化

自動車業界で

例えば、変位センサを使ってブレーキディスクなどのゆがみを検知し、高精度な部品づくりに貢献しています。

電子部品業界で

例えば、形や色を認識する画像センサを用いて不良品を検出し、歩留まり向上に貢献 しています。

医薬品業界で

例えば、正確さが求められる錠剤の個数管理などを通じ、医薬品の品質向上に貢献しています。

食品業界で

例えば、賞味期限のラベルを画像センサで読み取り、印字ミスが無いかを確認、品質管理に貢献しています。

光学技術

光電センサ

赤外線や可視光線などを使って、主に検出物の有無を判断。

レーザ技術

変位センサ

主にレーザ光線を使って、検出物の移動量や詳細な寸法を計測。

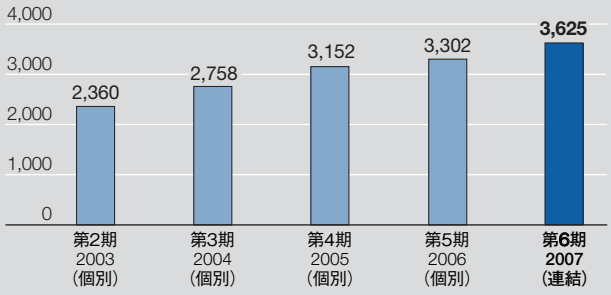
画像処理技術

画像センサ

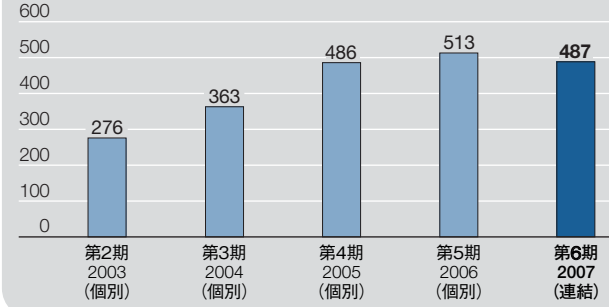
デジタル画像処理技術を使って、色や文字など視覚情報を解析。

財務ハイライト （2006年12月期以前は、連結対象子会社がなかったため個別の数値です。）

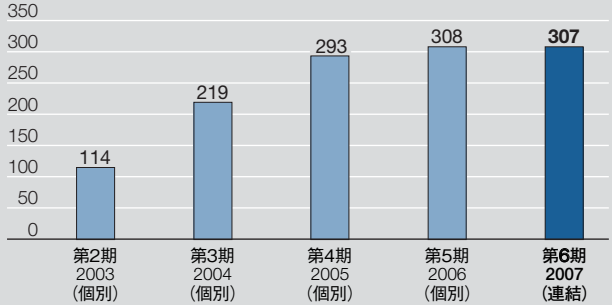
売上高 （単位：百万円）



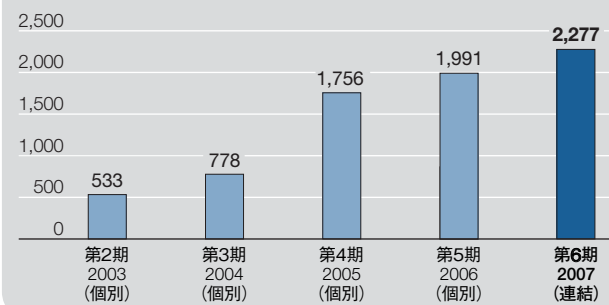
経常利益 （単位：百万円）



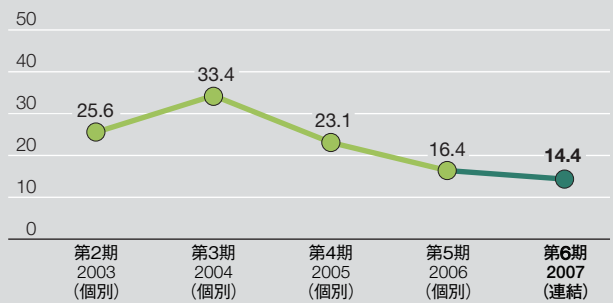
当期純利益 （単位：百万円）



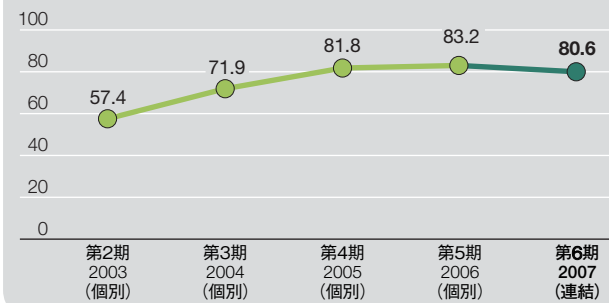
純資産 （単位：百万円）



ROE（自己資本利益率） （単位：%）



自己資本比率 （単位：%）



今後の主力市場である画像センサ分野に本格参入。
迅速な拡大に向けて、人員を拡充し協業体制を整えました。

オプテックス・エフエー株式会社
代表取締役社長
小國　勇

連結業績について
当社は、2007年12月期より連結財務諸表を作成しているため、
2006年12月期の数値及び対前期増減率については記載しておりません。

見通しに関する注意事項
当報告書の記載内容のうち、歴史的事実でないものは将来に関する見通し及び計画に基づいた将来予測です。これらの将来予測には、リスクや不確定な要素などの要因が含まれており、実際の成果や業績などは記載の見通しとは異なる場合がございます。

株主の皆様からのご質問にお答えします。

Question 1

2007年12月期の業績と、そのポイントを教えてください。

A　国内市場では新製品の販売が好調。海外向けでは調達部品の不具合から、新製品の発売が後半にずれこみました。

当期（2007年12月期）、当社グループは主として開発系人員の拡充を図りながら、新市場の本格的な開拓に向けた製品開発に注力しました。その成果として、今後の主力と位置付ける画像センサ分野での製品開発が進み、新しい顧客業界に進出することができました。

この一例のマルチカメラ画像センサMVSシリーズ（P.8参照）は、2007年5月の発売から好調な販売状況で、電子部品や自動車業界に本格的な参入を果たしました。

しかしながら国内市場では、アプリケーション機器の一部製品で販売不振があったこと、連結子会社で大型物件の受注が遅れたことなどが、業績を押し下げる要因となりました。

一方、海外市場では、北米自動車業界向けや中国・韓国向けに開発を進めた汎用機器の新製品について、一部の調達部品に不具合があったため部品精度を高めることを優先させて、当期後半に発売をずらしたことから売上が伸び悩みました。欧州市場では、SICK AG社（独）向けのOEM生産品が堅調に推移しました。

これらの結果、当連結会計年度の売上高は36億25百万円、営業利益は4億58百万円、経常利益は4億87百万円、当期純利益は3億7百万円でした。

当社単独では、売上高は34億43百万円（前期比4.3%増）、営業利益は5億16百万円（同0.5%増）、経常利益は5億58百万円（同8.8%増）、当期純利益は3億41百万円（同10.8%増）でした。

Question 2
新製品の開発・発売状況は？

A 2007年12月期後半から続々と新製品の開発が進展。これは本社移転の大きな効用と考えています。

汎用機器では、まず国内向けに、高機能品を汎用化した新製品数種を発売し、好調な販売状況です。

海外向けでは、北米自動車業界に特化した汎用センサを2007年秋に発売。時期はずれこんだものの、現地メーカー品と比べて高精度・低コストを実現しました。同型センサは北米市場で年間約100万個程度の需要があり、長期的に、まとまった量の販売が期待できます。

アプリケーション機器では、前述のMVSシリーズの新機種の開発を進め、2008年3月発売を予定しています。これは、検査ラインで異種混入を防ぐ文字認識や寸法計測機能を備えた機種で、これでMVSの基本シリーズがほぼ出そろいます。

多品種少量生産化が進む日本の製造業では、不良品発生によるロスコストの削減が重要なテーマとなっています。また食品業界や自動車業界などではトレサビリティ（製造履歴管理）が重視されています。こうした生産・品質管理の高度化にともなう市場は毎年7～8%ずつ伸びており、MVSシリーズはこの成長市場に投入する製品です。アプリケーション機器では、ユーザー向けにカスタマイズした製品を提供する予定です。

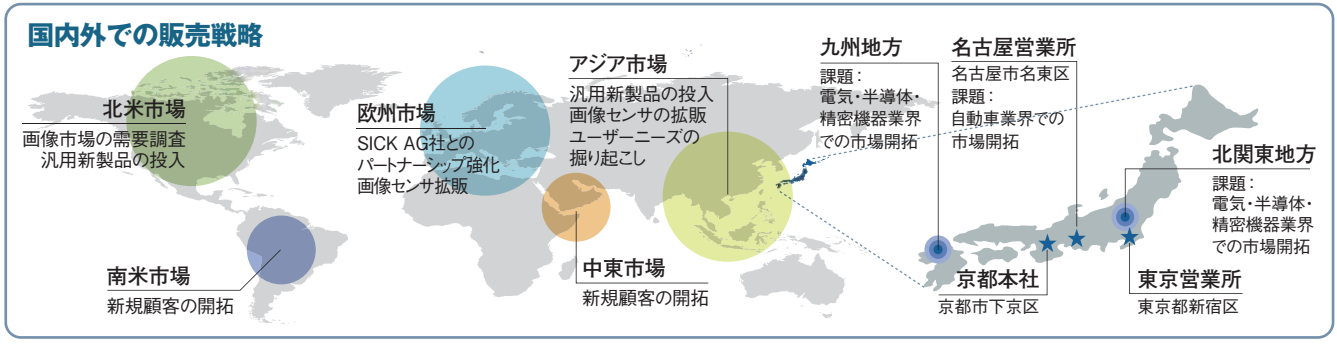
このほか、2008年2月に発売したMDF（モニタリングセンサ）シリーズは、LED照明のメンテナンス時期が一目瞭然で把握できる特許出願中の製品です。当社グループが次の市場と位置付ける半導体業界に進出するにあたって、戦略的な位置づけも有しています。

このように新製品の開発が迅速化し始めた要因としては、2007年11月に本社を移転した効果が大きいと考えています。営業・開発・販促が一体となって仕事に取り組める環境が整い、情報と課題の共有化が図れるようになったことで、想定以上の成果が現われています。

Question 3
新市場開拓の進捗は？

A 市場開拓に必要な陣形を整えることができました。今後の開発内容と成果にご期待ください。

当社グループの経営戦略の柱は、高付加価値分野へのシフト、すなわち画像センサ分野への本格参入にあります。その中でも、300



億円規模と推定されるミドルレンジ市場を早期に開拓していきます。

当期、日本エフ・エーシステム株式会社（本社：神奈川県横浜市）を連結子会社化し、さらに株式会社デクシス（本社：千葉県船橋市）との販売・製造面での協業をスタートしました。次ページに市場開拓に向けた戦略図を示しましたが、画像センサ分野を網羅する陣形を整えることができ、この効果は次期後半から具体的に現れてくると考えます。

また、2008年2月にはIDEC株式会社（本社：大阪市）と新たに業務提携を行うことに合意、画像処理分野で一層の事業領域拡大を図ってまいります。

新市場の開拓にあたっては、極めて専門性の高い分野であるだけに、セールスエンジニアの存在が不可欠です。当社は業界に精通した営業系人員を拡充し、販売体制も整えていきます。

新本社
（京都リサーチパーク）

Question 4

配当政策と次期の業績見通しを教えてください。

A 次期（2008年12月期）から中間配当を実施いたします。連結売上高は40億円を見込んでいます。

当社グループは、これまで期末配当のみ実施してまいりましたが、次期から中間配当を実施し、中間・期末を合わせて普通配当2,600円を予定しています。

次期の連結業績は、売上高40億円（前期比10.3%増）、営業利益5億10百万円（同11.3%増）、経常利益5億30百万円（同8.8%増）、当期純利益3億20百万円（同4.0%増）を見込んでおります。

株主の皆様におかれましては、今後の当社グループの成長にご期待いただき、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2008年3月

オプテックス・エフエー株式会社 代表取締役社長

小國　勇

圧倒的な市場規模の「ミドルレンジ市場」を開拓していきます。

モノづくりの現場で、生産管理や品質管理に用いられる画像センサは、その性能と価格によって大きく3つの市場に区分されます。中でも、半導体や自動車、電気などの業界を主なマーケットとするミドルレンジ市場は、年10%程度の成長を持続しており、現在は300億円規模と推定される大きな市場を形成しています。

当社は、この市場で多くの取引先を持つ株式会社デクシスとのパートナーシップによる製造・販売面での提携を開始しました。連結子会社である日本エフ・エーシステム株式会社（JFAS）も含めた3社が連携しながら、ミドルレンジ市場の開拓を確実に、迅速に進めていきます。

画像センサ市場

※市場規模と成長率は当社分析による

レンジ別画像センサの特長

	ローエンド	ミドルレンジ	ハイエンド
形状	単体製品	単体製品	●専用基盤（パソコンに組み込むためのボード） ●画像システム一式（カメラ、パソコン、モニター）開発
分析方法	センサ単独で解析可能	業務用画像処理・分析ソフト	顧客向けに開発したシステムで分析
特長	設置・導入が容易 優れたコストパフォーマンス	高速検査	超高速超高精度検査
当社グループ	FA Future's Answer	（株）デクシスとの協業でこの市場を開拓	JFAS

画像センサの成長戦略

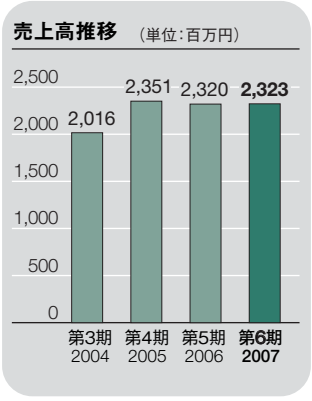
1. ミドルレンジ向け上位機種の投入
2. 株式会社デクシスとの協業（販路、製品）
3. 子会社（JFAS）の活用、シナジー創出
4. 特定顧客向けカスタマイズを推進
5. 欧州、アジア市場向けの販促強化
6. 国内画像センサ専属営業組織の強化（マンパワーの増強）

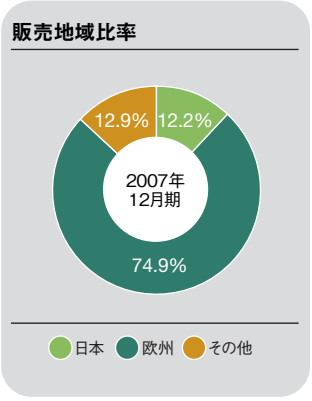
汎用機器

**短時間で多量の検査が必要とされる
生産ラインで、物の有無や数量をカウントするなど、
省力化・合理化を主な目的とした
汎用性が高い製品群。**

国内向けは、従来の三品（食品、化粧品、医薬品）業界向けが前期に引き続き堅調な動きとなりました。しかしながら海外向けは、中国、韓国向けにおいて新製品の投入時期が遅れたため、微増にとどまりました。

この結果、当期の売上高は23億23百万円となりました。





透明体センサ

業界一の精度を誇る高性能センサ

KR-Qシリーズ

BGSセンサ

BGSとは、“Background Suppression”の略で「背景を無視する」という意味です。

背景の色や対象物の色に影響を受けず検出

BGS-ZLシリーズ（レーザタイプ）

アンプ内蔵センサ

機能満載、耐環境性抜群、コンパクト

Z-Lシリーズ（レーザタイプ）

超薄型、斜め出しコード、取付場所を選ばない

ミニチュアタイプEシリーズ

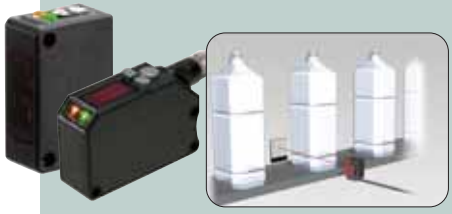
透明体センサ・BGSセンサ ZR-QXシリーズ/BGS-DLシリーズ

物流、飲料業界で高い評価

営業担当者より

ペットボトルなど透明な物体の検査ラインで、トップクラスの応答時間を実現したZR-QXシリーズ。近接して複数のラインが並行する検査現場で、検出物の背景を消し、安定した検出を可能にしたBGS-DLシリーズ。

どちらも、アンプ一体型汎用タイプとして業界で初めて発売した製品であり、物流業界や飲料業界での採用が進んでいます。

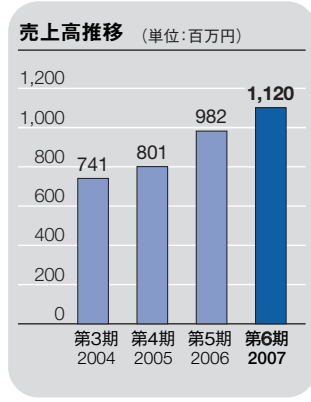


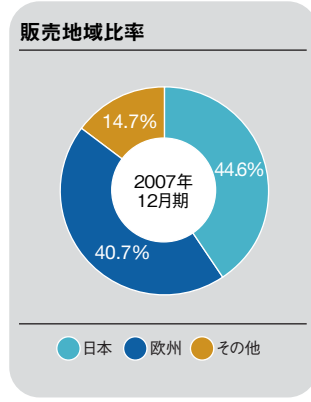
アプリケーション機器

品質管理の高度化、検査項目の複雑化など さまざまなニーズにお応えし、 特定用途向けに独自開発した製品群。

国内向けは、新規に販売を開始したマルチカメラ画像センサ（MVS）、文字認識カラービジョンセンサ（CVS4）が好調に推移しました。また、海外向けは、SICK AG社向けにカラービジョンセンサ（CVS）が、中国向けにファイバー型センサがそれぞれ堅調な動きとなりました。

この結果、当期の売上高は11億20百万円となりました。





高速・高精度レーザ変位センサ

透明体や鏡面体を0.1μmの精度で
測定可能な高精度センサ

CD4シリーズ

ファイバーセンサ

デュアルな機能が満載のデジタルファイバセンサ

デジタルタイプD2RFシリーズ

画像センサ CVSシリーズ

色面積センサ
CVS1シリーズ

文字認識センサ
CVS4シリーズ

MVSシリーズ

カメラユニットをコントローラに3台まで接続可能
タッチパネル & テンキー操作

マルチカメラ画像センサ MVSシリーズ

印刷、自動車、三品（食品、化粧品、医薬品）業界で高い評価

営業担当者より

3台のカメラを接続し、同時撮影が可能といった優れた基本性能、そして従来機の半額程度というコストパフォーマンスによって、印刷の落丁、自動車の部品品質、半導体のパッケージ印字などの検査分野で高い評価を得ています。

各種品質検査における効率化・高度化は、各企業から強いニーズがあります。当社は機能面で多様化した新製品を順次、投入し、新たなマーケットニーズを掘り起こしていきます。

要約連結財務諸表

※当連結会計期間より連結財務諸表を作成しております。

連結貸借対照表(要約)

(単位:千円)

科目	当期末
	2007年12月31日現在
(資産の部)	
流動資産	1,755,663
現金及び預金	632,116
受取手形及び売掛金	693,935
たな卸資産	245,180
繰延税金資産	20,895
その他	164,159
貸倒引当金	△625
固定資産	1,067,710
有形固定資産	92,803
無形固定資産	63,578
投資その他の資産	911,328
資産合計	2,823,373

(単位:千円)

科目	当期末
	2007年12月31日現在
(負債の部)	
流動負債	403,941
買掛金	152,765
1年以内返済予定長期借入金	12,948
未払法人税等	103,559
賞与引当金	8,229
その他	126,438
固定負債	142,208
負債合計	546,149
(純資産の部)	
資本金	546,525
資本剰余金	554,098
利益剰余金	1,176,343
評価・換算差額等	△147
少数株主持分	405
純資産合計	2,277,224
負債・純資産合計	2,823,373

連結損益計算書（要約）

（単位:千円）

科目	当期 2007年1月1日から 2007年12月31日まで
売上高	3,625,722
売上原価	2,053,434
売上総利益	1,572,288
販売費及び一般管理費	1,114,143
営業利益	458,145
営業外収益	43,521
営業外費用	14,662
経常利益	487,004
特別利益	31,659
特別損失	6,139
税金等調整前当期純利益	512,523
法人税、住民税及び事業税	208,993
法人税等調整額	△441
少数株主損失	3,771
当期純利益	307,743

連結キャッシュ・フロー計算書（要約）

（単位:千円）

科目	当期 2007年1月1日から 2007年12月31日まで	前期 2006年1月1日から 2006年12月31日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	244,444	231,214
投資活動によるキャッシュ・フロー	△351,225	△356,096
財務活動によるキャッシュ・フロー	△128,442	△61,400
現金及び現金同等物の減少額	△235,223	△186,281
現金及び現金同等物の期首残高	867,340	1,053,621
現金及び現金同等物の期末残高	632,116	867,340

※当連結会計期間より連結財務諸表を作成しているため、
前期の数値は個別財務諸表の数値を記載しております。

連結株主資本等変動計算書

（単位:千円）

	株主資本				評価・換算差額等		少数株主持分	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	株主資本合計	その他有価証券評価差額金	評価・換算差額等合計		
2006年12月31日　残高	537,300	544,873	909,025	1,991,199	391	391	—	1,991,591
連結会計年度中の変動額								
新株の発行	9,225	9,225		18,450				18,450
剰余金の配当			△61,060	△61,060				△61,060
当期純利益			307,743	307,743				307,743
連結の範囲の変更に伴う剰余金増加額			20,634	20,634				20,634
株主資本以外の項目の連結会計年度中の変動額(純額)					△539	△539	405	△134
連結会計年度中の変動額合計	9,225	9,225	267,317	285,767	△539	△539	405	285,633
2007年12月31日　残高	546,525	554,098	1,176,343	2,276,967	△147	△147	405	2,277,224

※当連結会計期間より連結財務諸表を作成しているため、2006年12月31日残高は個別財務諸表の数値を記載しております。

要約個別財務諸表

個別貸借対照表(要約)

(単位:千円)

科目	当期末	前期末
	2007年12月31日現在	2006年12月31日現在
(資産の部)		
流動資産	**1,639,608**	**1,785,951**
現金及び預金	590,685	867,340
受取手形	99,130	106,232
売掛金	568,332	523,597
たな卸資産	183,355	166,873
繰延税金資産	20,895	14,640
未収消費税等	71,421	69,971
その他	106,414	37,886
貸倒引当金	△625	△590
固定資産	**1,106,527**	**607,173**
有形固定資産	**88,198**	**69,806**
無形固定資産	**24,172**	**8,148**
投資その他の資産	**994,156**	**529,218**
資産合計	**2,746,136**	**2,393,125**

(単位:千円)

科目	当期末	前期末
	2007年12月31日現在	2006年12月31日現在
(負債の部)		
流動負債	**372,321**	**334,068**
買掛金	148,954	135,140
未払金	81,634	60,644
未払法人税等	103,379	105,404
賞与引当金	8,229	6,737
その他	30,123	26,142
固定負債	**83,882**	**67,465**
負債合計	**456,203**	**401,533**
(純資産の部)		
資本金	**546,525**	**537,300**
資本剰余金	**554,098**	**544,873**
利益剰余金	**1,189,457**	**909,025**
評価・換算差額等	**△147**	**391**
純資産合計	**2,289,933**	**1,991,591**
負債・純資産合計	**2,746,136**	**2,393,125**

個別損益計算書(要約)

(単位:千円)

科目	当期 2007年1月1日から 2007年12月31日まで	前期 2006年1月1日から 2006年12月31日まで
売上高	**3,443,618**	**3,302,877**
売上原価	1,956,437	1,914,028
売上総利益	**1,487,181**	**1,388,848**
販売費及び一般管理費	971,032	875,214
営業利益	**516,148**	**513,634**
営業外収益	44,483	565
営業外費用	2,269	1,055
経常利益	**558,362**	**513,144**
特別利益	186	—
特別損失	5,952	2,723
税引前当期純利益	**552,597**	**510,421**
法人税、住民税及び事業税	208,813	200,826
法人税等調整額	2,292	1,434
当期純利益	**341,491**	**308,160**

個別株主資本等変動計算書

(単位:千円)

	株主資本				評価・換算差額等		純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	株主資本合計	その他有価証券評価差額金	評価・換算差額等合計	
2006年12月31日　残高	**537,300**	**544,873**	**909,025**	**1,991,199**	**391**	**391**	**1,991,591**
事業年度中の変動額							
新株の発行	9,225	9,225		18,450			18,450
剰余金の配当			△61,060	△61,060			△61,060
当期純利益			341,491	341,491			341,491
株主資本以外の項目の連結会計期間中の変動額(純額)					△539	△539	△539
事業年度中の変動額合計	9,225	9,225	280,431	298,881	△539	△539	298,342
2007年12月31日　残高	**546,525**	**554,098**	**1,189,457**	**2,290,081**	**△147**	**△147**	**2,289,933**

会社概要 （2007年12月31日現在）

会社概要

会社名	オプテックス・エフエー株式会社
本社所在地	〒600-8815 京都市下京区中堂寺粟田町93 京都リサーチパーク4号館8F
設立	2002年1月7日
資本金	5億4,652万円
事業内容	ファクトリー・オートメーション用光電センサ 関連機器、装置の製造・販売等
従業員数	68名（連結）　49名（単体）
事業所	東京営業所 名古屋営業所
関係会社	オプテックス株式会社（滋賀） ジックオプテックス株式会社（京都） 日本エフ・エーシステム株式会社（神奈川）

役　員

代表取締役社長	小國　勇
取締役	坂口　誠邦
取締役	岩田　俊彦
取締役	西原　弘之
取締役	湯口　翼
取締役	小林　徹
常勤監査役	見座　宏
監査役	八幡　知行
監査役	東　晃

関係会社の紹介

関連会社：ジックオプテックス株式会社（SICK OPTEX）

欧州センサ市場で35%というトップシェアを有するSIKC AG社（ドイツ）と当社が、強固なパートナーシップのもと設立した合弁会社です。

最先端のセンサ技術が集積する日本市場での技術動向を踏まえながら、短期間での開発が可能な強みを活かし、主に欧州向け小型汎用光電センサの開発を担っています。

連結子会社：日本エフ・エーシステム株式会社（JFAS）

2007年2月、当社が子会社化した世界有数の画像処理技術を有するメーカーです。最先端レベルにある同社の技術は、公的機関をはじめ世界のユーザーから信頼を得ています。

当社は画像処理システム分野の早期事業化戦略に基づき、開発から生産・販売に至る全ての面で、同社との緻密な連携体制を構築していきます。

株式の状況 （2007年12月31日現在）

株主数および株式数

会社が発行する株式の総数	80,000株
発行済株式の総数	24,916株
1単元の株式の数	1株
株主数	1,320人

大株主一覧

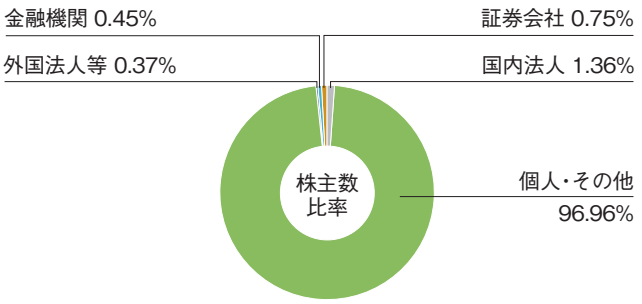
株主名	株数（株）	持株比率（%）
オプテックス株式会社	15,400株	61.80%
小國　勇	812	3.25
小林　徹	280	1.12
岩田　俊彦	212	0.85
オフロム株式会社	205	0.82
株式会社山正マーケティングサービス	200	0.80
西原　弘之	196	0.78
湯口　翼	184	0.73
松本　邦広	180	0.72
サンオクト株式会社	160	0.64

株主メモ

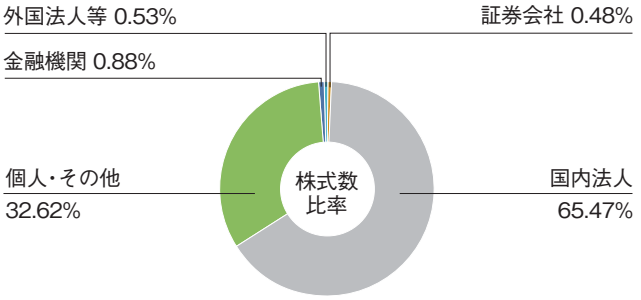
上場証券取引所	大阪証券取引所ヘラクレス
証券コード	6661
決算期	12月31日
定時株主総会	3月に開催
基準日	12月31日
中間配当基準日	6月30日
株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社
同事務取扱場所	大阪市北区堂島浜一丁目1番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社　大阪証券代行部
同取次所	三菱UFJ信託銀行株式会社　全国本支店 野村證券株式会社　全国本支店

株式分布状況

株主数比率



株式数比率（%）



Hercules
Nippon New Market
ヘラクレス上場会社：6661

FA
Future's Answer

オプテックス・エフエー株式会社

〒607-8085
京都市下京区中堂寺粟田町93　京都リサーチパーク4号館8F
TEL：075-325-2930　FAX：075-325-2931
http://www.optex-fa.jp

TOPICS

当社は2007年10月、
名古屋と東京で開催された2つの展示会に出展しました。

メカトロテックジャパン2007

「ポートメッセなごや」で開催された国内最大規模のFA専門展。377社が出展し、9万人を超える来場者がありました。当社はマルチカメラ画像センサ「MVSシリーズ」をメインに各種センサを出展し、大勢のお客様にご来場いただきました。製造業の一大集積地・中部エリアで得られた確かな手応えをもとに、拡販に注力していきます。

2007日本国際包装機械展（ジャパンパック）

東京ビッグサイトで開催され、12万人を超える来場者があったこの展示会には、24の国・地域から375社が出展。包装の分野でも安全・安心が強く求められる時代にあって、当社は「MVSシリーズ」をメインに各種センサを展示。食品や印刷など各種業界からの多数の来場者に対して、当社製品の優位性を強くアピールしました。